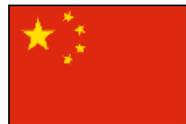
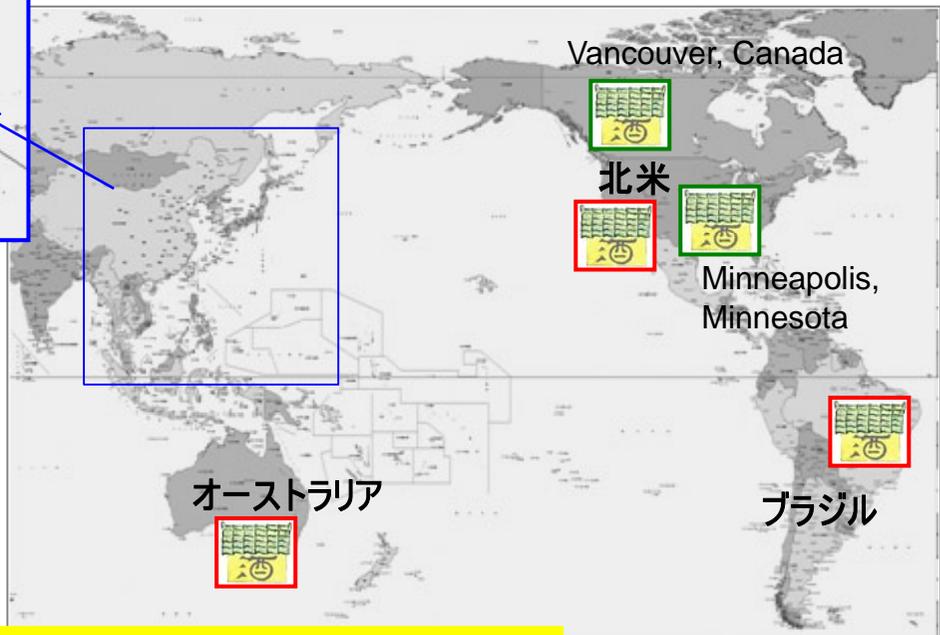


# 海外における 清酒・焼酎生産の 100年の歴史



text: Tsuneo Kita  
2010.04.29/ed.7.0



 Sake manufacturer  
 Micro Sake brewery

**2010年現在、清酒製造を行っている国**  
 Countries where Sake is produced in 2010

# 日本以外で清酒を造っている企業(2010年現在)

## Sake producing companies in the world (except Japan) at the point 2010

国	日本名、または漢字社名	英語社名・現地社名	ブランド	設立年、または清酒製造開始年	株主、または提携、または指導	生産国の企業について
country	company name in Japanese or in Kanji	company name in English	brand name	established or the year start making Sake	stock holder or partner of Japan	about the owner in the country
アメリカ USA	大関USA	Ozeki Sake U.S.A., Inc.	大関	1979	大関、キッコーマン、JFC	
	米国宝酒造	Takara Sake USA Inc.,	松竹梅	1983	宝酒造など	
	米国月桂冠	Gekkeikan Sake (USA), Inc.	月桂冠	1989	月桂冠、味の素、メルシャン	
	SakéOne	SakéOne	桃川、Moon Stone	1997	桃川(提携)	アメリカの資本
	八重垣USA	Yaegaki Corp. of USA	ヤエガキ	1999	ヤエガキ酒造	
	基・居酒屋	moto-i	(sake brewery restaurant)	2008		Richardsonさん
カナダ Canada	アーティザン・サケ・メーカー	Artisan Sake Maker	OSAKE	2008		白木さん
ブラジル Brazil	東山農産加工	Indústria Agrícola Tozan Ltda.	東麒麟	1935	キリンホールディングスが、株の一部を保有	日系の現地企業
	サクラ中矢	Sakura Nakaya Alimentos Ltda.	大地	1979		日系の現地企業(醤油メーカー)
台湾 Taiwan	臺灣菸酒股份有限公司	TTL (Taiwan Tobacco & Liquor Corporation)	玉泉清酒	1997		台湾公売局が91年に民営化された会社
	霧峰郷農會酒莊	Wu-Feng Farmer's Association	初霧	2008		霧峰郷農會
韓国 Korea	斗山酒造BG	Doosan Liquor BG	清河、白花寿福、雪花	1945		2009年、ロッテが買収
	慶州法酒も生産？ いくつかの小規模の薬酒メーカーも少量の清酒を生産？			---		
中国 China	天津中谷酒造有限公司		朝香	1994	中谷さん(中谷酒造)	
	宝酒造食品有限公司		松竹梅	1995	宝酒造、丸紅、三井物産、三菱商事	
	愛丹造酒有限公司		観月梅	1995	甘強酒造	
	瀋陽大旺食品有限公司		大関	2003	大関(技術提携)	旺々group
	大連木戸泉醸造有限公司		木戸泉	1994	当初、木戸泉酒造などが出資したが、その後日本側は撤退	現在、現地資本
	大連借樂園食品有限公司		白扇	1996	藤崎總兵衛商店など	
	南通日久酒造有限公司		日久、鬼ころし	2006	あらたに大石酒造と提携	現地資本
ほかに、現地資本中心にいくつかの清酒メーカーがある			---			
オーストラリア Australia	サンマサムネ社	Sun Masamune Pty Limited,	豪酒	1995	小西酒造	
タイ Thai	コスモス社	Sura Bangkiyan Co. Ltd.	忍	1995	日本人が醸造指導	“ThaiBev”の傘下
ベトナム Vietnam	フエフーズ社	Hue Foods Company	越の一、娘薫	1996	福岡の土木会社経営、才田さんが設立	

# 日本以外で清酒を造っている企業(2010年現在)

## Sake producing companies in the world (except Japan) at the point 2010

**Sake manufactures in USA / アメリカの清酒製造者**

- Takara Sake USA Inc. / 米国宝酒造 (Berkeley, CA)
- Ozeki Sake U.S.A., Inc. / 大関 USA (Hollister, CA)
- Gekkeikan Sake (USA), Inc. / 米国月桂冠 (Folsom, CA)
- Yaegaki Corporation of USA / 八重垣 USA (Vernon, CA)
- SakeOne (Forest Grove, OR)
- moto-i / 基・居酒屋 (Minneapolis, MN) \* sake brewery restaurant, no bottle pictured here



⑥ Gekkeikan / USA    ⑦ Honolulu Sake Brewing-Takara / USA    ⑧ Momokawa-SakeOne / USA    ⑨ Ozeki / USA

**Sake manufactures in Brazil / ブラジルの清酒製造者**

- Industria Agrícola Tozan Ltda / 東山農産加工 (São Paulo, SP)
- Sakura Nakaya Alimentos Ltda / サクラ中央 (São Paulo, SP)

**Canada / カナダの清酒製造者**

- Arisan Sake Maker (Vancouver, BC) \* micro sake brewery

**Australia / オーストラリアの清酒製造者**

- Sun Masamune Pty Limited / サンマサムネ社 (Penrith NSW)

**Taiwan / 台湾の清酒製造者**

- TTL / 臺灣菸酒股份有限公司 (林口酒廠・桃園縣龜山鄉)
- 舜峰郡農會酒莊 (台中縣舜峰鄉)

**China / 中国の清酒製造者**

- 天津中谷酒造有限公司 (天津)
- 宝酒造食品有限公司 (北京)
- 愛丹酒造有限公司 (江蘇省丹陽)
- 瀋陽大旺食品有限公司 (瀋陽)
- 大連福康園食品有限公司 (大連)
- 大連木戸泉醸造有限公司 (大連)
- 南通日久酒造有限公司 (江蘇省南通)
- Some more Sake manufactures are existing.

**Vietnam / ベトナムの清酒製造者**

- Hue Foods Company (Hue City)

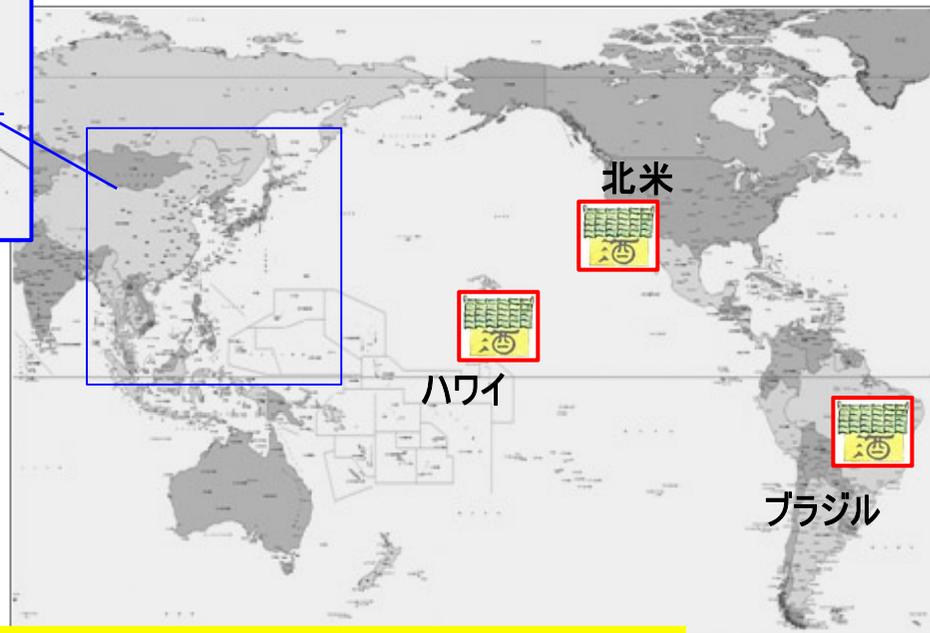
**Korea / 韓国の清酒製造者**

- Doosan Liquor BG / 斗山酒造 BG (全羅北道群山市)
- Some other companies making Sake?

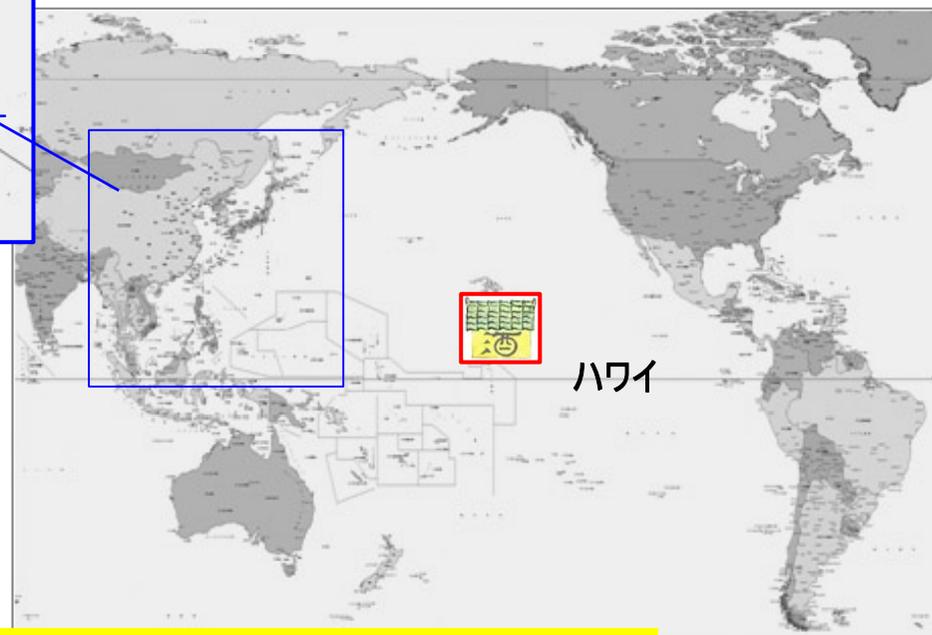
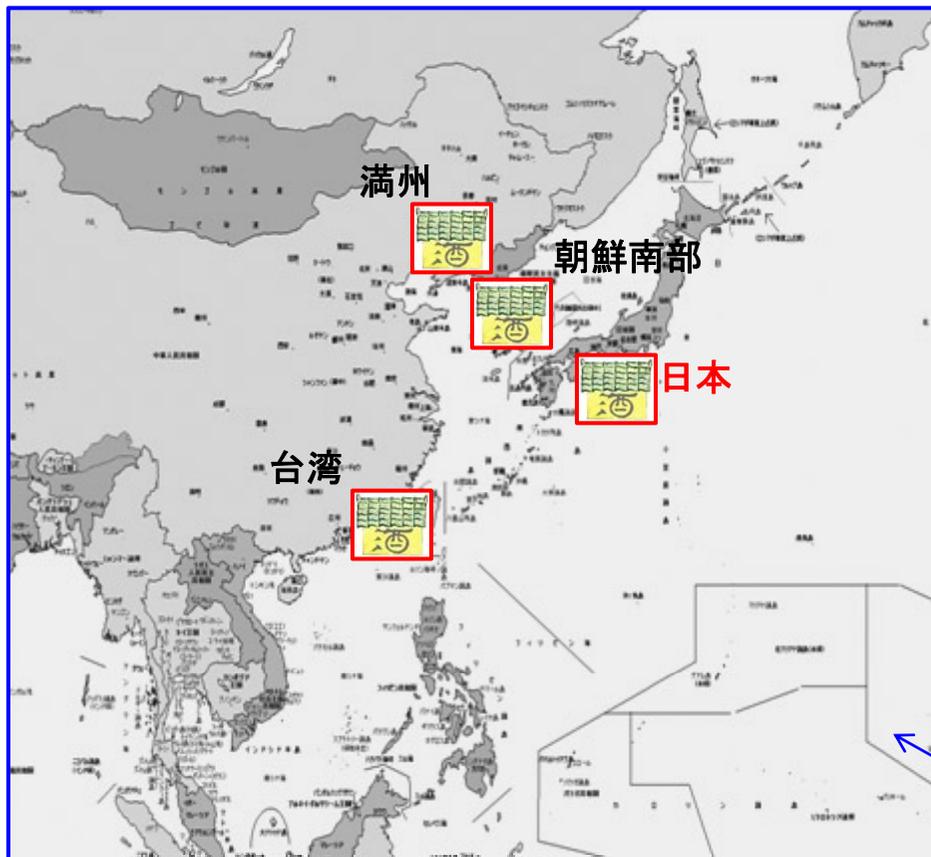
**Thai / タイの清酒製造者**

- Sura Bangyikhan Co., Ltd. / Subsidiary of ThaiBev (Tambon Prachalipai)

ほかに、ミャンマーでも「サケ」が作られているという情報もありました。

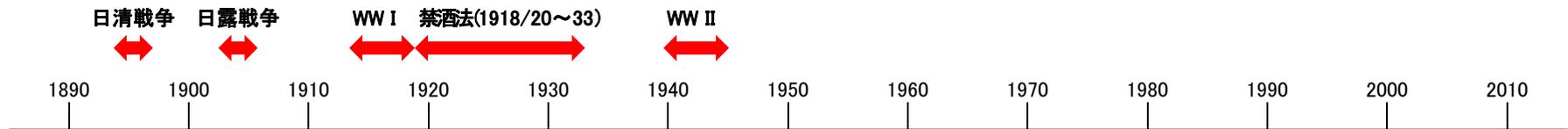


**約70年前: 1940-43年ころに清酒製造を行っていた国と地域**  
 Countries/territories where Sake was manufactured in C.1940-43



**100年前: 1910年ころに清酒製造を行っていた国と地域**  
Countries/territories where Sake was manufactured in C.1910

# 外国産清酒の歴史と現状 <移民由来 + 新興需要 : アメリカ>



2008~ : Moto-i  
(ミネアポリス, MI. マイクロサケ  
ブルワリー)

1983~ : 宝酒造「松竹梅」  
(パークレー, CA。「宝正宗」「甲州  
正宗」もいまだ継続)

1979~ : 大関USA (ホリスター,  
CA。キッコーマン、JFC、サンベニトと、  
オーゼキサンベニト社として設立。84  
年サンベニトが離脱し現社名に)

1989~ : 米国月桂冠  
(フォルサム, CA。味の素と)

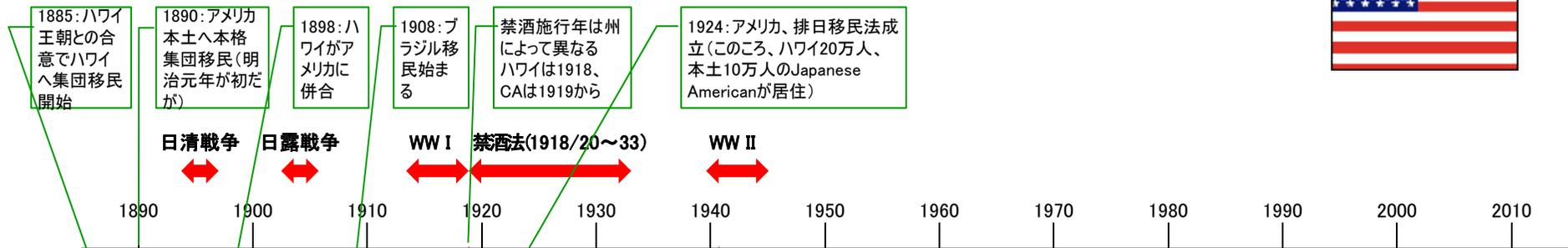
1999~ : 八重垣USA  
(パークレー→03年パノン, CA)

1997~ : Sake One「桃川」(ポートランド,  
OR。フレーバードの「Moon Stone」も)

**主な区分**

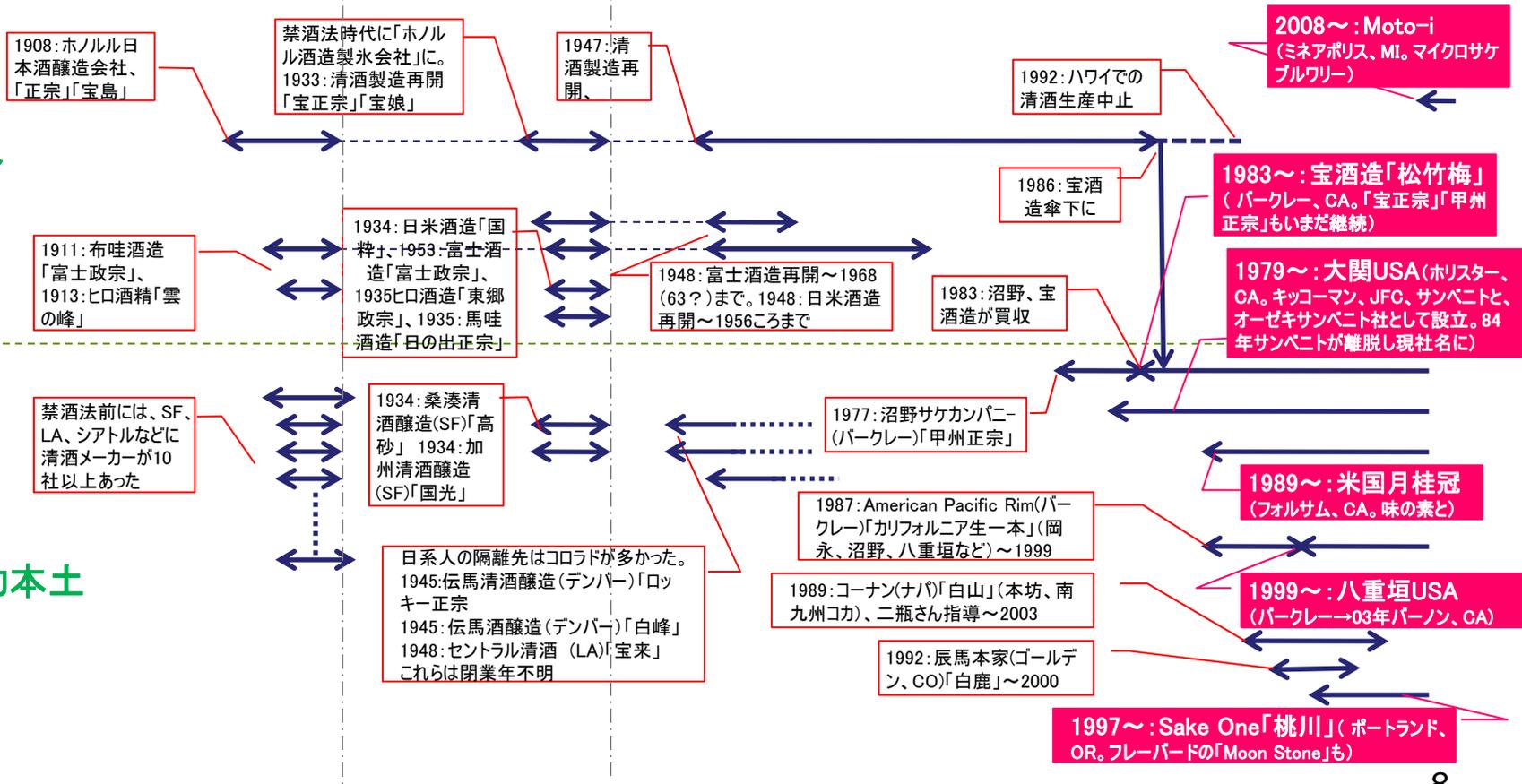
- 清酒 (Blue double-headed arrow)
- 焼酎 (Pink double-headed arrow)
- 醤油や日本食品 (Green double-headed arrow)
- ビール、ワインなど (Orange double-headed arrow)
- 操業中の清酒 (Pink box)
- トピックスの記述 (Red box)
- 技術的記述 (Green box)

# 外国産清酒の歴史と現状 <移民由来+新興需要：アメリカ>



## ハワイ

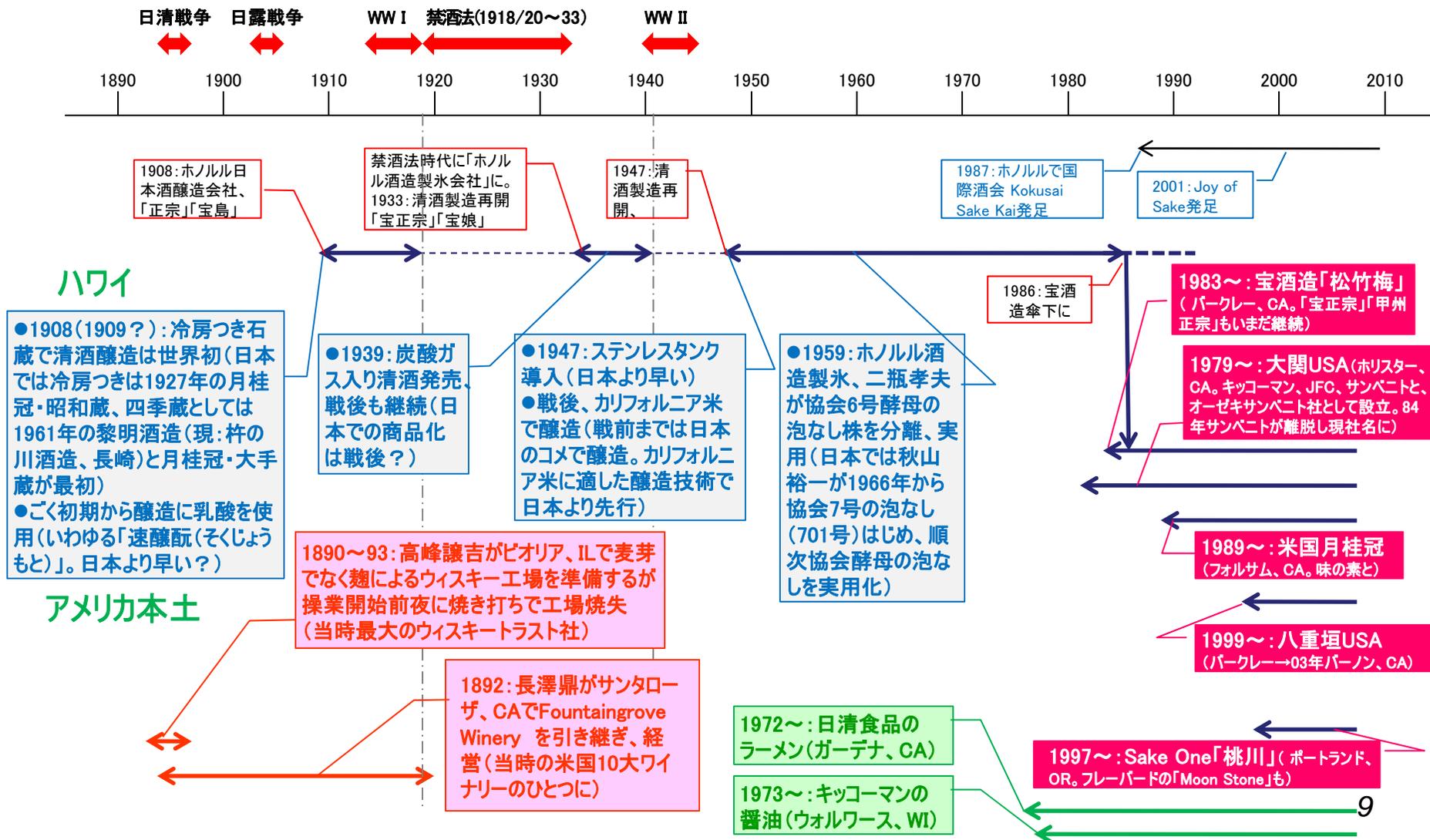
## アメリカ本土



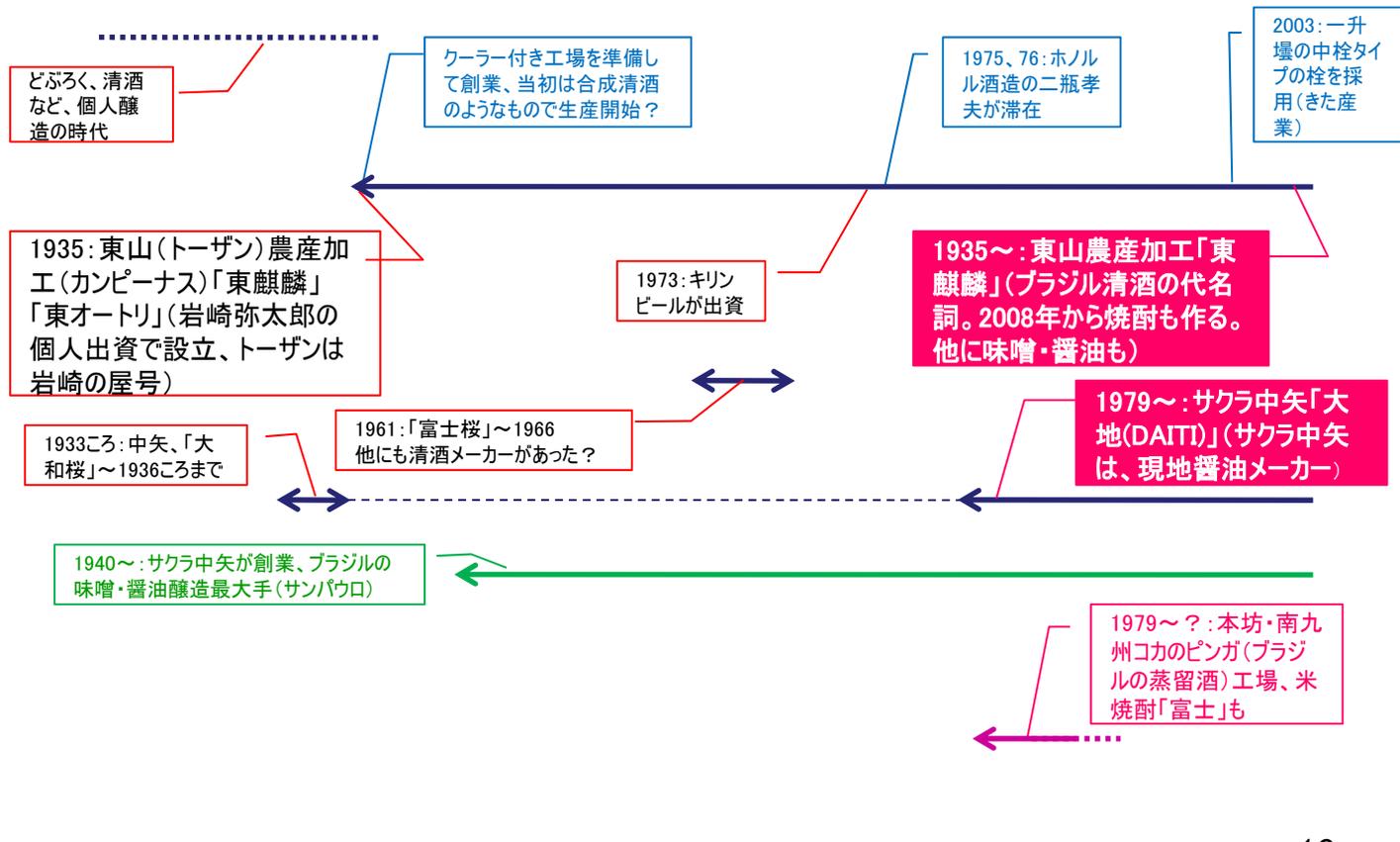
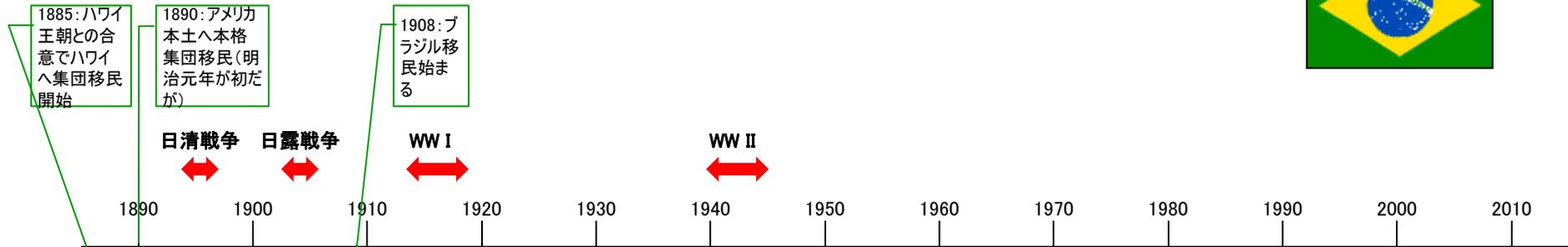
# 外国産清酒の歴史と現状 <移民由来+新興需要：アメリカ>



## <ホノルル酒造は清酒技術の先端だった> + <他の酒造・日本食品関連年表>



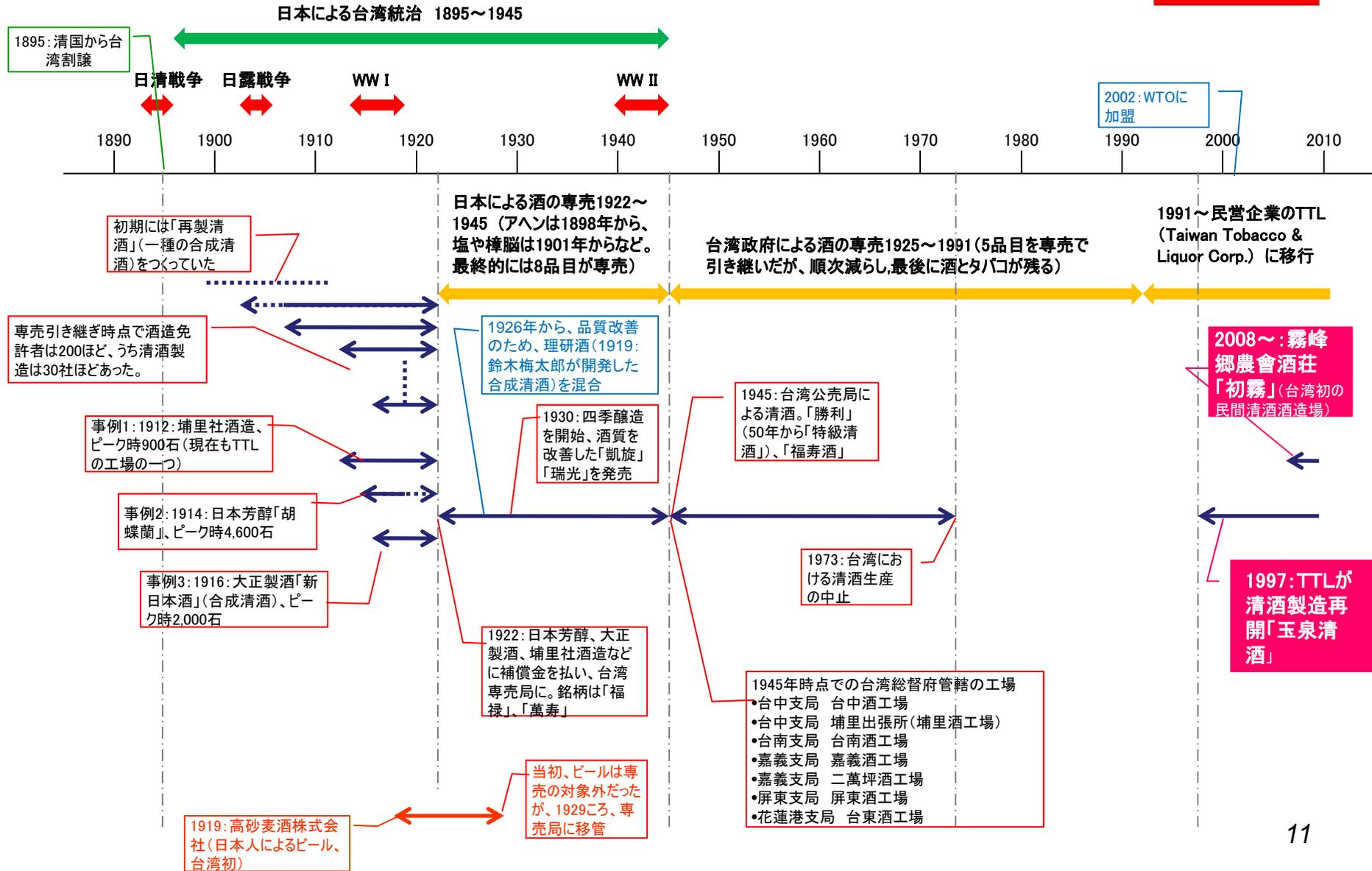
# 外国産清酒の歴史と現状 <移民由来+新興需要：ブラジル>



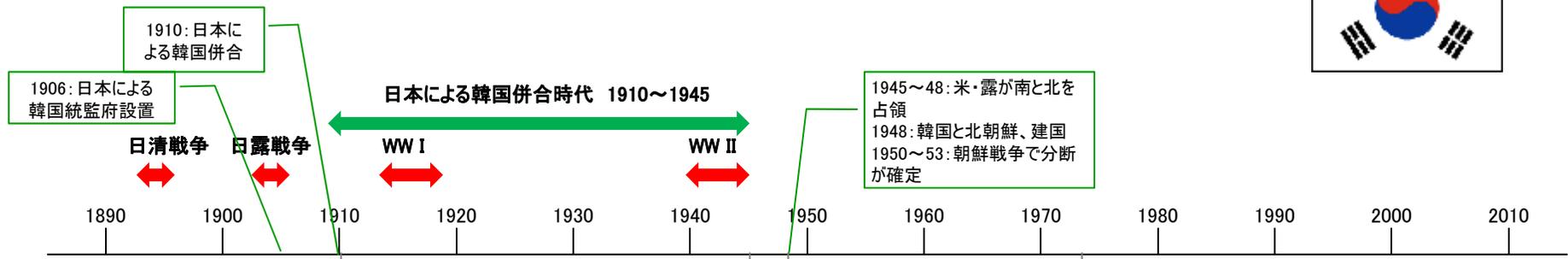
**主な区分**

- 清酒
- 焼酎
- 醤油や日本食品
- ビール、ワインなど
- 操業中の清酒
- トピックスの記述
- 技術的記述

# 外国産清酒の歴史と現状 < 占領・統治由来 + 新興需要 : 台湾 >



# 外国産清酒の歴史と現状 < 占領・統治由来 + 新興需要 : 韓国 >



日本人による清酒製造の時代: 1890ころ～1945

韓国人による清酒製造の時代 : 1945～

ソウル(京城)、釜山、仁川など、**現・韓国側**

事例1: 釜山の福田(個人免許)の「向陽」(1883～1945)は、終戦時にあった清酒蔵元119社のうちで、もつとも古い。1883年は日本による韓国併合の27年前。

事例2: 元山の元山酒造(1913～1945、「朝之松(あさのみつ)」、兵庫出身の植田)は、最盛期に1万石で、朝鮮で2位。(戦後の1955年、植田は朝鮮で酒造していた26社とともに復活酒造免許を得て、灘で「金鹿」を設立)

ピョンヤン(平壤)、元山など、**現・北朝鮮側**

事例3: 平壤の斎藤酒造(名)(1918～1945、「金千代」「銀千代」)は、最盛期1万5千石(京城の分工場と合わせて2.3万石)で朝鮮最大、日本を含めても最大規模の蔵元の一つ。社長、斎藤久太郎は農場主で、朝鮮最大の新式焼酎(=甲類)の太平醸造(株)も経営。

「白花」の前身は、朝鮮酒造(株)(1915～1945、朝の花(あさのはな)、岡山出身の西原が経営)

「鶏明」の前身の酒造蔵もあったのではないかな?

「朝海」の前身は、赤澤コサト(個人免許)の「澤泉」(1925～1945)

1945: 白花醸造「白花(Peka)」

1946: 「鶏明」

1945: (株)朝海「朝海」

1986: 「清河(Chungha)」新発売(白麴菌使用)

1985: 白花、斗山(当時、OBビールをもっていた)傘下

1983: Crown(現Hite)ビール傘下に、銘柄も「金冠」に変更

1999ころ: 「金冠」、生産停止

1997ころ: 「朝海」、生産停止

2009: ロッテが、斗山酒類を買収(98年ころ斗山からインペブが買収したOBビールもロッテが買収の見込み)

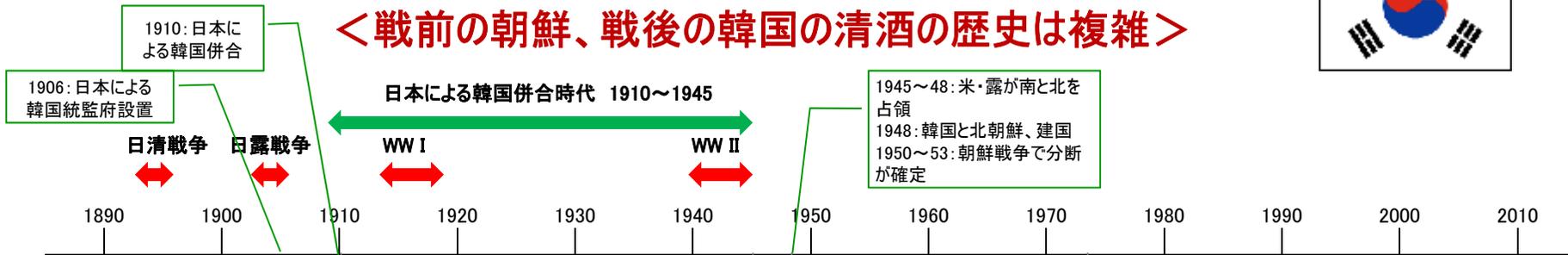
**斗山の「清河」、「白花寿福」、大吟醸「雪花」**  
(ほかに、慶州法酒も清酒、との見解も)

2000: 宝海醸造(株)清酒「宝海」を試醸?(韓国3位のこの会社は1950年に既存の醸造場を引き継ぎ、清酒製造で創業)

# 外国産清酒の歴史と現状 < 占領・統治由来 + 新興需要 : 韓国 >



## < 戦前の朝鮮、戦後の韓国の清酒の歴史は複雑 >



日本人による清酒製造の時代: 1890ころ~1945

韓国人による清酒製造の時代 : 1945~

●海外における清酒製造は朝鮮が最も古い。  
●嚆矢は1872年、釜山の荒木某による日本風濁酒。1890年ころから、釜山、仁川などで日本人経営による本格的な清酒製造が開始された。  
●本格焼酎もやや遅れて平壤近辺ではじめられた。

●1909年の酒造法で自家醸造からも酒税を徴収。(朝鮮ではマッコリ (makkolli、濁酒)の自家醸造が一般的だった)  
●1916年の酒税令で自家醸造を制限した結果、約29万場から、1932年には1場にまで激減。(一方で、終戦に至るまで年間数万単位の密造を檢舉)

●新式 (= 甲類) 焼酎は1920年代に邦人経営数社が開業。1931年に14社が全鮮新式焼酎連盟を設立。ピーク時に25万石程度。  
●単式蒸留焼酎は、伝統的には麴子 (きよし、リゾープス) を利用していたが、邦人が持ち込んだ黒麴 (アスペルギルス) が主流となった。

●ビールは「朝鮮麦酒」(旧大日本麦酒-現アサヒ・サッポロ-が出資)と、「昭和麒麟麦酒」(麒麟麦酒が出資)が、1933年に免許を得て同時に設立。  
●「朝鮮麦酒」はCrownをへてHiteビール、「昭和麒麟麦酒」はOBビールの前身。

●1945年の終戦時点で、清酒の蔵元(朝鮮清酒酒造組合員)は119。そのほか、新式(甲類)焼酎が12社、在来式(乙類)焼酎が10社程度あった。  
●清酒酒造石数は1936年に11万5,547石、1944年には9万1,107石。  
●清酒大手で朝鮮に進出していたのは、菊正宗、桜正宗、月桂冠、白鶴。

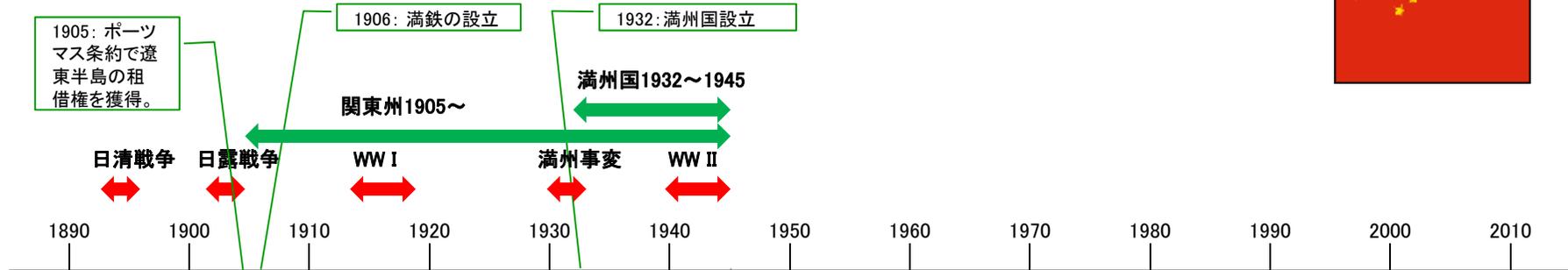
●終戦後、韓国側の清酒蔵の多くは、韓国人によって引き継がれた。日本人杜氏が、1~2年、残って指導した例もあった。  
●北朝鮮側の蔵も、1945以降もしばらくは存在したと考えられるが、朝鮮戦争で消滅?

●1965: 食糧政策で酒類に米を使用することを制限。  
●1973: 韓国政府方針で、30以上あった清酒メーカーが「白花」、「鶏明」、「朝海」の3つに。

●1989: 政府の米の制限解除。純米酒、単式蒸留米焼酎も可能に。  
●衰退していた清酒造りは、「日本メーカーの技術援助」と「韓国財閥(斗山)の資金援助」で80年代後半から盛り返し、冷用酒「清河(チョンハ)」の発売でブーム。ピーク時の清酒製造量は20万石以上。  
●1995年から日本に本格輸出。95年から2007年まで少ない年で8千石、多い年は1万6千石。(ただし、2008年は1千石程度に急減)

●2005ころから日式レストラン、居酒屋で清酒がブーム。カリフォルニア清酒も入っている。  
●ブーム以前の清酒は、正月の酒、先祖供養の酒としての位置づけが大きかった。今もソル(旧正月)の茶禮や先祖供養には、マッコリや焼酎でなく、大半の家庭で「清酒(チョンジュ)」(「正宗(チョンジョン)」とも呼ばれる)を供えるそうで、その需要量は大きい。

# 外国産清酒の歴史と現状 < 占領・統治由来 + 新興需要：中国 >



## 日本人による清酒製造: 1910ころ~1945

- 満州には日本人経営の清酒メーカーが多数存在した。
- 大手による買収などもあり、経営者や銘柄は変わった酒造場も多いが、終戦時点で50以上あった。
- 例: 満州千福酒造(1933~)、満州松竹梅(1940~)、満州菊正宗(1934~)、満州月桂冠(1940~)、満州白鹿(1940~)、八王子醸造工業、など。
- 焼酎メーカーの進出も多くあった。
- 清酒の生産量は需要に追いつかず、日本のほか、朝鮮から相当量が輸入された。

## 中国人・日本人による清酒製造: 1993ころ~

- 1993: 「金富士」(三鑫食品有限公司。明和流通など) 青海
- 1994: 「木戸泉」(大連木戸泉醸造有限公司。千葉の木戸泉、埼玉の藤崎惣兵衛商店などと合併、その後中国資本) 大連
- 1994: 「銀雪」「雪之舞」(天津直沽醸造有限公司。中国資本) 天津
- 1994: 「朝香」(天津中谷酒造有限公司。奈良県の中谷酒造) 天津
- 1995: 「観月梅」(愛丹酒造有限公司。愛知県の中谷酒造、味林が主だが清酒も製造) 丹陽
- 1995: 「松竹梅」(北京寛宝食品有限公司→現在、宝酒造食品有限公司) 北京
- 1996: 「翁鶴」(大王酒造有限公司。京都府の大石酒造と中国の合併→2008年から南通日久酒造有限公司にスイッチ) 天津
- 1996: 「白扇」(大連借楽園食品有限公司。大連木戸泉醸造が中国資本になったので藤崎らが設立)
- 2003: 「大関」(瀋陽大旺食品有限公司。大関の技術援助) 瀋陽
- 上記の他に、2010年時点で数社が清酒を造っている？また、今は造っていないが過去に清酒を造ったことのある企業も。

## その他の外国産清酒



### (タイの清酒)

➤「忍」「桜」: コスモス社(タイ最大手のビール、ThaiBev.の傘下) 1995~(1998ころ中断、2002年ころから再開。弘中さんが指導)



### (オーストラリアの清酒)

➤「豪酒」: 小西酒造ら・サンマサムネ: 1995~  
➤「銀嶺すずらん」: スズランインターナショナル、久慈さん他: 2000~2002ころまで?



### (ベトナムの清酒)

➤「越の一」「娘薫」: Hue Foods Co.(福岡の土木会社経営、才田さんが設立。焼酎も製造。): 1996~



### (カナダの小規模清酒)

➤バンクーバーでマイクロサケ醸造所、白木さん: 2008~

# 外国産単式蒸留焼酎の事例

Shochu Manufacturers, outside of Japan



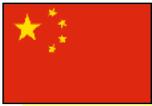
(ブラジルの焼酎)

- ✓マンジオカ焼酎「伯魂(HAKKON)」: MN Shotyu社(プロポリスのMN Propolis社の子会社) マンジオカはキャッサバの粉。ブラジル国内向け: 製造開始は2005年~(以下同じ表示)
- ✓米焼酎「東麒麟」: 東山農産加工が「秋田こまち」でつくる。ブラジル国内向け: 2008年~



(ニュージーランドの焼酎)

- ✓「Mana」: Mana Shuzo社、ニュージーランド人による焼酎。黄金千貫やニュージーランド産さつま芋などによる芋焼酎。日本市場がターゲット: 2008年~



(中国の焼酎・泡盛)

- ✓内蒙古万楽醸造有限公司: 沖縄の久米仙酒造による泡盛、日本向け: 1994年~
- ✓芋焼酎「桜前線」: 愛丹造酒有限公司: 愛知の甘強酒造による。清酒のほか、焼酎を中国国内向けに開始: 2005年~
- ✓芋焼酎「甚太郎」: 上海神仙酒造が日本向けに: 2007年~



(台湾の焼酎)

- ✓台湾瑞穂食品有限公司: 沖縄の瑞穂酒造による泡盛、日本向け。: 1998年~



(トンガの焼酎)

- ✓「トンガ焼酎Shochu Malie(マーリエ)」: キャッサバとサツマイモの焼酎、追立さん: 1996年~



(ベトナムの焼酎)

- ✓「南蛮鬼ごろし」: 芋・麦・米の3種がある。サンフーズの現地工場、ワインフーズ社が製造。甲乙混和の「麦大陸」もある: 1990年代~
- ✓米焼酎「鬼」: Hue Foods Co.(フエフーズは清酒も作っている。日本人が製造指導): 1996年~



(韓国の焼酎)

- ✓米使用解禁の1990年代以降、鹿児島河内源一郎商店の製麹装置や蒸留機が韓国内数社に納入され、麴による単式蒸留焼酎が作られている。(朝日新聞2006年3月9日)
- ✓一例として、真露ジャパンも2004年から「本格焼酎」区分の「安東焼酎」(米焼酎)を販売している。(注:「真露」自体は甲類区分)



(タイの焼酎)

- ✓黒糖焼酎「ろじゃな」: Rojana Distilleryが製造、日本法人のロジャナリカージャパンが日本向けに販売: 2008年~
- ✓「タイ焼酎モンシャム」「タイ米焼酎あいやら」「タイ米焼酎SILK」などが、日本市場で乙類焼酎の表示で販売されている。これらはアユタヤ近辺の現地資本の蒸留所の製品。



(参考: 甲類焼酎だが、アメリカ、フランスの焼酎)

- ✓「霧のサンフランシスコ」はコーン、「パリ野郎」は甜菜を原料とした甲類焼酎。原産地はそれぞれ、アメリカとフランス。ファーストトレーディング社が輸入。

## 消えた海外の清酒・焼酎

### (戦前の樺太の清酒)

◆1905年のポーツマス条約で北緯50度以南の樺太が日本へ復帰。

◆1912年:「樺太に於ては今日清酒の醸造者が多少あって、一年産額凡そ四千百十七石ばかりあるけれども、内地からの移入量が約一千二石ばかりであるから、結局樺太全島に於て消費せらるる石高は凡そ、四千九百八十一石前後と見る事が出来る。故に此を全島人口三万千十七人が飲用するものと見る時は一人平均一斗六升ばかりである」(明治45(1912)年5月18日の中央新聞の記事)

◆1932年「昭和7年、酒醸造場が四六場あり、清酒、酒精益々品質向上し、移入酒を駆逐すべく努力中である」(樺太庁「昭和10年樺太要覧」)

◆1930年ごろ:知取町の樺太醸造、大泊の高橋酒造など

◆(復活免許)「昭和31年(1956年)、北海道の名寄に新しい酒造会社、北興酒造株式会社が誕生。樺太からの酒造業者が集まって設立し、日本清酒名寄支店の第二工場となっていたかつての名寄醸造の跡を借りて「若泉」を醸造発売した。昭和30年代は、一般に2級酒が主流で(「福鶴」「千歳鶴」)「若泉」は醸造の街の名をほしいままにしたが、昭和40年代後半から清酒の消費量は長期低迷傾向に入ってしまう。昭和48年、北興酒造は日本清酒の傘下に。昭和59年に北興酒造も醸造を中止して、名寄からの酒造工場の造り部門が完全に姿を消してしまったのである。」(ウェブサイト「名寄寸話(なよろ百話)」から抜粋加筆)

### (戦前の南洋群島の清酒・ラム酒・焼酎)

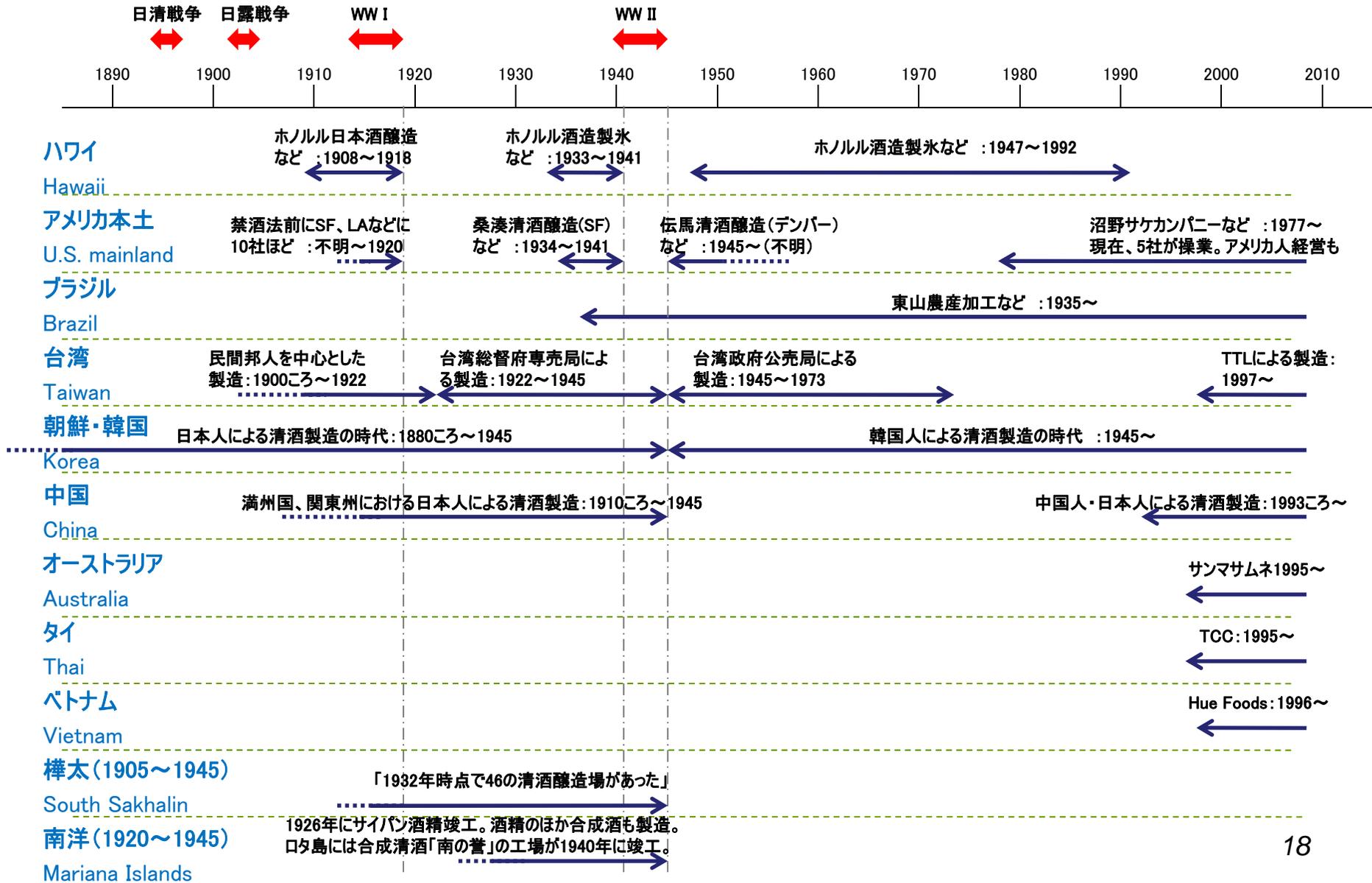
◆ヴェルサイユ条約により、ドイツの植民地であった南洋諸島の一部(サイパン島、テニアン島、ロタ島、ヤップ島、トラック諸島など)が、国際連盟によって、1920年から日本委任統治領と認められた。

◆「ロタ島には合成清酒の工場(南洋興発(株)が1940年10月に竣工、銘柄は「南の誉」「南興」で1.5万石程度)があり、南洋諸島内と本土に出荷。この工場はウィスキー、酒精も製造した。」(ロタ島とマリアナ諸島の記録・武村次郎)

◆南洋興発は、1926年7月にサイパン酒精工場を竣工。主に合成酒などを造り日本本土に出荷。1934年6月にはテニアン酒精工場が竣工。1943年、東京・滝野川の南洋興発の研究所は、サイパン・テニアンの原酒で日本初のラム酒「興発ラム」をつくり、東京で発売。(テニアン島で収穫されたサトウキビの糖蜜を原料に連続式蒸留機で造られた原酒をベースに、サイパン島で収穫されたサトウキビの糖蜜を原料に連続式蒸留機で造られた原酒と小さな単式蒸留機で造られた原酒をブレンド。その後、活性炭で濾過し、琥珀色に色付けされたダークラム)(ウェブサイト「ラムを探して三千里」2007年8月15日から)

◆南洋諸島には沖縄からの移住者が多く、焼酎・泡盛の工場もあったのではないかと推測される。

# 外国産清酒の歴史と現状 <まとめ：清酒が作られた国・地域と時期の一覧>



# SAKE・SHOCHU・UMESHUの世界マーケットは、今後も伸びる

Factors and causes of growing, historical point of view

	1960	1970	1980	1990	2000	2010	US	EU	ASIA
(前史)ハワイ、アメリカ、ブラジルにおける「移民の日本人需要」=「海外清酒需要」(1900~WWII)							●		
(前史)アジアにおける日本の支配と、政策的清酒の拡大(1890~WWII)									●
「現地駐在の日本人需要」=「海外清酒需要」だった時代	→						●	●	●
日本レストランの穏やかな増加の時代(酒消費と醤油消費が相関?)		→					●	●	●
現地生産の清酒による底辺需要の拡大(本格的には90年代から)	→						●		●
健康食志向			→				●	●	
すしブーム、回転すし、Sushi Bar				→			●	●	●
日本レストランの急増(日本人オーナーでない日本レストラン、B・C級日本レストラン、日本食ファーストフード)				→			●	●	●
フュージョン系ジャパニーズレストランの登場					→		●	●	
マンガ、アキバ、オタクのヨーロッパへの浸透					→			●	
日本旅行ブーム、帰国後に酒を飲むアジアからのツーリスト、居酒屋チェーンのアジアへの進出					→				●
日本食レストラン以外で清酒を出す店の登場					→		●		
ワインの代替としてのサケ(文化のある飲料であることの認識)、サケバーやサケ専門店の出現					→		●		
北米で小規模サケ醸造所の登場						→	●		

●日本食・日本酒・日本文化の増加ベクトルがそろいつつある！

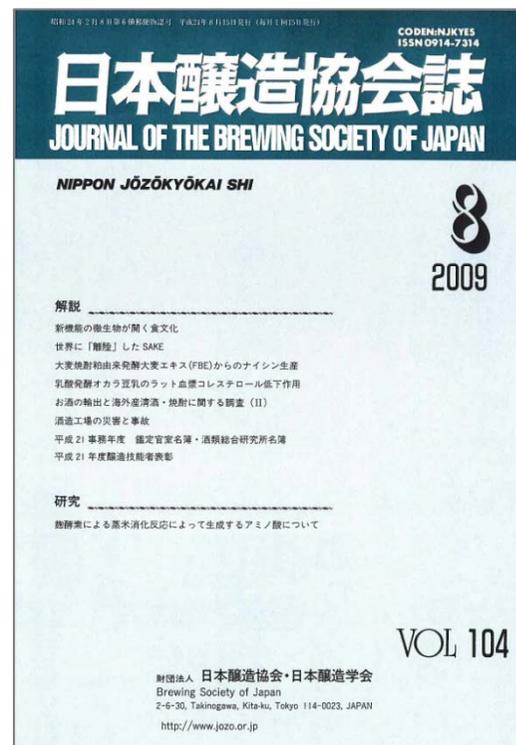
# SAKE・SHOCHU・UMESHUの世界マーケットは、今後も伸びる

Factors and causes of growing, historical point of view

	1960	1970	1980	1990	2000	2010	US	EU	ASIA
(前史)朝鮮、台湾などでの、日本統治下の新式焼酎工場の設立(1930~WWII)									
日本における乙類焼酎ブームの始まり			----->						
日本における芋焼酎ブーム				----->					
海外駐在日本人の焼酎シフト				----->			●	●	●
焼酎ブームのアジアへの飛び火					----->				●
海外日本レストランのメニューに焼酎が定着しだす					----->		●	●	●
アジア各国で、Shochuの現地生産・現地消費が始まる					----->				●
世界の韓国レストランにおける真露などSojuの普及			----->				●	●	
CA州、NY州におけるSoju(韓国焼酎)のライセンス緩和					----->		●		

大手酒造メーカー、チョーヤ、キッコマンなどの梅酒の継続的輸出			----->				●	●	
チョーヤのドイツ進出、「梅の実入り」のエキゾチックな演出				----->				●	
アメリカ・中国で、Umeshuの現地生産が始まる					----->		●		●
中小業者の、Umeshuの海外輸出が活発化					----->		●	●	●
韓国の梅酒 <i>maesilju</i> も輸出にドライブをかけている					----->		●		●

●焼酎、梅酒も、サケと同じく「日本の酒」として一定規模の市場を形成するフェーズ。



この資料は、日本醸造協会誌2009年7月号と8月号に掲載された「お酒の輸出と海外産清酒・焼酎に関する調査—日本の清酒、焼酎、梅酒の未来図」と題する発表のうち、歴史に関する部分を2010年4月現在でアップデートしたものです。

乙類焼酎の海外の歴史についての記述が少ないのですが、(ブラジル、朝鮮で若干の情報があつたものの)今回の調査では情報を満実に集められませんでした。新式(=甲類)焼酎については、酒精(アルコール)製造との関連、さらには戦争中にアルコールを軍需用燃料として使用した歴史、また大手資本の企業がほとんどであったので多くの資料がありましたが、単式蒸留焼酎について、特に戦前については、個人免許や小規模業者が多かったこともあり、情報収集を難しくしています。

参考文献 ●「アメリカに日本食文化を開花させたサムライたち」宇治田憲彦、燦葉出版社、2008年11月5日 ●「海のかたに蔵元があつた」石田信夫、時事通信社、1997年3月25日刊 ●「台湾における清酒醸造」吉田元、醸造協会誌2007年102巻11-12号 ●「続・ハワイにおける日本酒の歴史」二瓶孝夫、醸造協会誌1985年、80巻、11-12号 ●「ハワイにおける日本酒・味噌・醤油の歴史」二瓶孝夫、醸造協会誌1978年、73巻、5-7号 ●「戦前期朝鮮半島における邦人酒造業の地域的展開と特質」八久保厚志 酒文化2004年2月 ●「朝鮮酒造業界四十年の歩み」平山與一、財団法人友邦協会、1969年3月 ●神戸大学附属図書館デジタルアーカイブ「新聞記事文庫」●「月桂冠三百六十年史」●「大関二百八十年史」●「私の履歴書・本坊豊吉」日本経済新聞社、昭和63年ごろ ●「沖縄口会10周年記念誌」●Wikipediaの情報 ●多くのインターネット情報

情報提供いただいた方々 ●灘酒造(金鹿) ●月桂冠 ●大関 ●藤崎惣兵衛商店 ●大石酒造 ●その他、海外に醸造所を経営する酒造メーカー ●東山農産加工(ブラジル) ●石田さん(中国新聞) ●神屋さん(アイマック)